

南浦和中だより

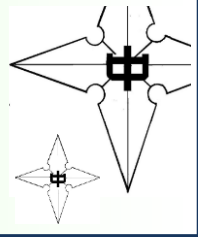
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『埠頭を渡る風』

校長 おお こと うち のり かず 大河内 範一

年に数回、海釣りに行く。以前は釣り船に乗って大物を狙ったこともあるのだが、船酔いが酷い体質のようで、早々と釣ることを諦め、ぐったりと横になっていることが多かった。「そんなことなら、釣り船に払う代金を魚屋で使えばいいのに」と妻からよく叱られていた。やっぱり私は、埠頭や防波堤に座って、爽やかな風を感じながら、のんびりと釣糸を垂らすスタイルが合っている。

防波堤では様々な魚を釣ることができる。アジやサバなどの回遊魚は春から秋にかけて多く集まってくるし、メバルやメジナは根魚と呼ばれていて堤防の際や海底の岩などに潜んでいる。魚の生態や行動を理解し、いかに魚が針に付いたエサに喰いつくかを考えるという、実に知的な競技でもあるのだ。

少し前、朝のあいさつをしながら生徒と話をしていた「誕生魚」というものがあることを知った。「誕生石」や「誕生花」ならともかく、魚もあるのかと思いギョギョツとした。(さかなクンの反応みたい) 調べてみると諸説あったが、私の誕生魚は「チョウザメ」だった。古代魚の一種で体表に硬い鱗があり、卵の塩漬けは世界三大珍味の1つのキャビアだ。高級感のある要素が含まれていて、なんだか得した気分になった。

さて、「さかなクン」であるが、タレントや魚類学者だけでなく、現在は大学の客員教授も務めているのだが、実は彼が書いた文章が道德の教材になっている。内容を紹介すると、メジナは海の中で仲良く群れて泳いでいるが、せまい水槽と一緒に入れると、1匹を仲間はずれにして攻撃し始めたという。かわいそうなので、その魚を別の水槽に移すと、残ったメジナは別の1匹をいじめ始めたとのこと。助け出しても、また次のいじめられっ子が出てくるのだ。さらには、いじめっ子のほうを水槽から出すと、今度は新たないじめっ子が現れたということだ。広い海の中ならこんなこと起こらないのに、小さな世界に閉じ込めると、なぜかいじめが始まってしまう。同じ場所に住み、同じエサを食べる、同じ種類同士なのに・・・。

人間の世界も同じようなことが起こっているのではないだろうか。グループや小集団など小さなコミュニティになると、急に誰かをターゲットにしたり、意地悪な言動になったり……。それぞれの大切な人生なのに、そんな悲しい時間を過ごすのは本当にもったいない。先月は「いじめ撲滅強化月間」であったが、いじめは自分たち一人ひとりが意識して行動しないと決してなくなならない。そして、人をいじめることは人間として絶対に許されないという強い認識を誰もが持つてほしいと願う。

自分の時間にゆとりができれば、また埠頭に座り、仲睦まじく和気あいあいと泳ぐ魚たちの姿を海面から眺めながら、釣りを楽しみたいものだ。